

ぱぴるす

図書館deキャンプが行われました！

11月16日(土)・17日(日)の2日間にかけて、中央図書館で「図書館deキャンプ」が行われました。このイベントは図書館に興味を持ってもらい、利用してもらうことを目的に苫小牧市を拠点に活動する「家外屋倶楽部」さんの協力のもと、開催されました。市内の小学5・6年生を対象に事前に募集を行い、応募した子どもたち約30人が5つのグループに分かれ、用意された様々な企画に取り組みました。

館内でぬいぐるみをモデルに撮影した写真をもとに1つのストーリーを創り上げたり、隠された宝を見つけるために次々に出される謎に挑んだり、テーマにあった本を探したりと、盛りだくさんの内容。2階の参考郷土資料室では生まれた年に発行された新聞が用意され、参加した子どもたちに誕生日に発行された新聞の1面のコピーがプレゼントされました。深夜には「夜の図書館探検」を楽しみ、非日常的な体験の連続で夜になっても寝付けない子もいたようですが、17日の朝8時には無事解散し、充実感にあふれながら図書館を後にしました。



自分たちで撮影した写真をもとにストーリー考え中



次々に出される難解な「謎」に四苦八苦



自分が生まれた年の新聞を眺める子どもたち



解散前に撮影 1泊2日お疲れ様でした！

新着図書(一般書)

お役立ち本

『絵本作家になるには』小野 明/著 ペリかん社
 『教室・校庭・行事を飾るカラフルバルーンアート』いかにだ社
 『ジオパークを楽しむ本』全国地質調査業協会連合会/共編 オーム社
 『新品みたいに長持ち!お手入れの教科書』PHP研究所
 『全国ご当地キャラのあみぐるみ』寺西 恵里子/著 辰巳出版
 『できるゼロからはじめるタブレット超入門』インプレスジャパン
 『デジタルカメラによる野鳥の撮影テクニック』誠文堂新光社
 『届け出・申請・手続き完全ガイド』メトロポリタンプレス
 『はじめての手作りアート石けん』小幡 有樹子/著 学研パブリッシング
 『花束デザイン図鑑300』フローリスト編集部/編 誠文堂新光社
 『パソコンで困ったときに開く本 2014』朝日新聞出版
 『ビーチコーミングをはじめよう』石井 忠/著 木星舎
 『法律トラブルを解決するならこの1冊』石原 豊昭/編著 自由国民社
 『哺乳類の足型・足跡ハンドブック』小宮 輝之/著 文一総合出版
 『40代から備える親の介護&自分の介護』横井 孝治/監修 世界文化社

海外文学


『悪の法則』コーマック・マッカーシー/著 早川書房
 『11/22/63』上下巻 スティーヴン・キング/著 文藝春秋
 『狼の王子』クリスチャン・モルク/著 早川書房
 『緩慢の発見』シュテン・ナドルニー/著 白水社
 『シャドウ・ストーカー』ジェフリー・ディーヴァー/著 文藝春秋
 『ヘミングウェイの妻』ポーラ・マクレイン/著 新潮社
 『レックス戦場をかける犬』マイク・ダウリング/著 並木書房

日本文学

『甘いもんでもおひとつ』田牧 大和/著 文藝春秋
 『雨のなまえ』窪 美澄/著 光文社
 『海と月の迷路』大沢 在昌/著 毎日新聞社
 『完璧な母親』まさき としか/著 幻冬舎
 『きまぐれ歴史散歩』池内 紀/著 中央公論新社
 『京都西陣シェアハウス』鍋木 蓮/著 講談社
 『賢者は幸福ではなく信頼を選ぶ。』村上 龍/著 ベストセラーズ
 『公園通りのクロエ』野中 柊/著 祥伝社
 『ゼツメツ少年』重松 清/著 新潮社
 『星を創る者たち』谷 甲州/著 河出書房新社
 『まほろ駅前狂騒曲』三浦 しをん/著 文藝春秋
 『無垢の領域』桜木 紫乃/著 新潮社
 『寄る年波には平泳ぎ』群 ようこ/著 幻冬舎

歴史・時代小説


『江戸なごり雨』縄田 一男/編 学研パブリッシング
 『お伊勢ものがたり』梶 よう子/著 集英社
 『黒田官兵衛』末國 善己/編 作品社
 『潮鳴り』葉室 麟/著 祥伝社
 『獅子の城塞』佐々木 譲/著 新潮社
 『冬虫夏草』梨木 香歩/著 新潮社
 『将門』矢野 隆/著 PHP研究所
 『村上海賊の娘』上下巻 和田 竜/著 新潮社
 『冥途の別れ橋』辻堂 魁/[著] 学研パブリッシング



「資格をお金に換える方法」
 高村 祐規子/著
 中経出版
 資格の活かし方、活用できる資格の選び方。そのコツが知りたい方必見の本が入りました。資格勉強のお供に、一読してみてもいかがでしょうか。



「花咲くポタジェの庭」
 難波 光江/著
 世界文化社
 野菜と花を同じスペースで育てる庭ポタジェ。鑑賞と収穫ができるため、楽しさがより長く続きポタジェの様子がわかる一冊。



「鬼ごっこアンド」
 石橋昭夫/著
 ミカガブリック
 外遊びの基本鬼ごっこのルールが一冊にまとめられました。読んでいただけで懐かしい気持ちになれてしまいます。



「屋田とハッコウ」
 山崎ナオコ/著
 講談社
 町の本屋アロワナ書店。屋田の語りで紡がれる日々はゆったりとしながらも、かなり現実的。行先付きで書店用語も紹介されています。

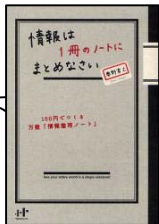
本の情報・話題の本

図書館に住む本の話

今回のテーマ:情報の整理術

年の変わり目が近づき、たくさんの手帳が店頭に並んでいます。どれを選ぶにせよ、折角だから上手に使いたい、と誰しもが思うはず。

とにかくシンプルにしたい方には『情報は1冊のノートにまとめなさい』(002.7㉙)。オンオフの予定からちょっとしたメモまで、ノート一冊で管理する方法で話題になったタイトルです。更に、多くの情報を取捨選択するために『「過情報」の整理学』(002.7㉘)・『仕事で忘れない技術』(336㉙)のような情報管理本もおすすめていたします。新しい年は、お気に入りの手帳や上手な情報整理術で楽しく過ごしたいですね。



予約本ランキング



「ホテルローヤル」 桜木紫乃 (219)

2 「祈りの幕が下りる時」 東野圭吾 (120)

3 「大泉エッセイ」 大泉洋 (93)

4 「海賊とよばれた男」 百田尚樹 (84)

5 「夢幻花」 東野圭吾 (81)

* 「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」 村上春樹 (66)

* 「ロスジェネの逆襲」 池井戸潤 (56)

* 「泣き童子」 宮部みゆき (49)

* 「無垢の領域」 桜木紫乃 (46)

* 「去年の冬、きみと別れ」 中村文則 (43)

11月19日現在

寄贈していただきました

トヨタ自動車北海道

『愛ふたたび』

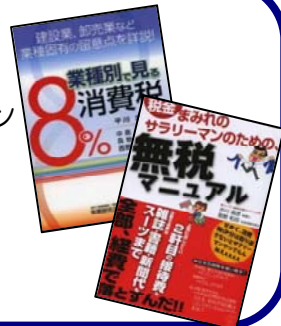
ほか一般書 61冊/児童書 68冊
大活字本 27冊

※大活字本以外は、移動図書館車とまチョップ図書館号で所蔵しております。中央館・図書コーナーでも、借りることができます。



苫小牧青色申告会

『業種別で見る8%消費税』
『税金まみれのサラリーマンのための、無税マニュアル』
ほか一般書 14冊



「食欲の秋」もあっという間に過ぎ去ってしまいましたが、案の定そのワナにかかり、健康診断での体重測定にてショックを隠しきれない状況に陥ってしまった私…。そんな小話はさておき、この「食欲の秋」に至るまで、長期にわたって取り組んでいたのが「ウォーキング」。実は大学入学の頃より始め、最初は1時間歩くことさえ「辛い」と思うほど。さらに遡ると、高校時代に「強歩」という20km以上歩くハードな行事があり、そのころは時期になると正直、うんざりしていました。そのような「うんざり」してしまうウォーキングを、何年も続けられるきっかけとなったのが、高校卒業が迫った頃に当時の恩師より薦められた一冊の本。小説家、放送作家、戯曲家として活躍された故・井上ひさし氏の長編小説「四千万歩の男」です。主人公は、江戸時代後期に初めて日本全国の測量を行って全国地図を作った伊能忠敬。この小説は、長編のため最初に先生より薦められたときは、「ウォーキング同様に正直「こんな厚い小説読めるのだろうか…」とうんざり気味でしたが、「きっとハマるはずだ」と恩師より助言があり、読んでみることに。

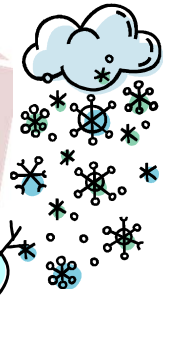
あれから十数年…。毎日ほぼ欠かさず歩数計を腰に装着して記録した歩数の累計はいつの間にか

5千万歩になり、「四千万歩の男」を超えて？ しまっていたのです。しかし、伊能忠敬は全国測量そして日本全図を作成するという大きな目標、使命、ライフワーク、とにかく「付加価値」としての4千万歩でした。一方、私のこととなるとこの夏までは、体重増加を食い止めることには何とか成功していたものの、最後に十数年分が一度にリバウンド…。「一体この5千万歩にどのような意義があったのか…」と、まだまだ人としての未熟さを痛感している次第です。

肝心の小説ですが、伊能忠敬の測量記録を織り交ぜながら、忠敬が測量で訪れた先にて、様々な人と出会い、親交を深めたり、事件に遭遇したりして測量を進めていくのですが、全5巻のうち2巻には、勇払が舞台となる章も登場します。忠敬が1800年(寛政11年)勇払を訪れ、蝦夷地の警備と開墾の励む、八王子千人同心の原半左衛門・新介兄弟らとのやりとりも登場します。会話の部分はフィクションだと思いますが、当時の勇払をイメージするうえでの資料にもなる小説ですので、ぜひ一読して「意義ある」4千万歩を目指していただければと思います。

図書館員の読書日記
今回は「」の日記です

こどもの本の ページ



「スーパースノーマン」
デュケノワ, ジャック/作
BL出版 エス



「おぼけのゆきだるま」
ジャック・デュケノワ/さく
ほるぷ出版 エオ



「ペンギンほっきょくへゆく」
デュケノワ, ジャック/さく
ほるぷ出版 エペ



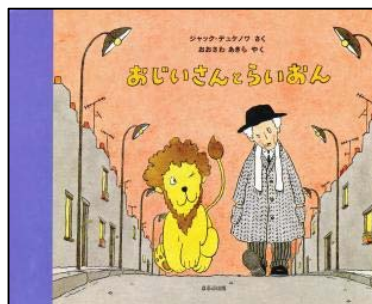
ジャック・デュケノワ さん

1953年、フランスのアミアンに生まれる。現在は、幼稚園の教師のかたわら絵本作家として活躍。作品に『おぼけパーティ』『おぼけ、ネス湖へいく』『おぼけの地下室たんけん』（以上、ほるぷ出版）などがあり、世界数カ国で翻訳出版されている。『おぼけパーティ』で1995年ペアレンツ・チョイス賞を受賞。

(『おぼけのうちゅうりょこう』奥付より)



「カミーユせんせいはまほうつかい!？」
ジャック・デュケノワ/さく
大日本図書 エカ



「おじいさんとらいおん」
デュケノワ, ジャック/さく
ほるぷ出版 エオ



「なかよしおぼけといたずらネッシー」
ジャック・デュケノワ/さく
ほるぷ出版 エナ

おしらせ

赤ちゃんを楽しむはじめての 絵本ひろば(0歳児)

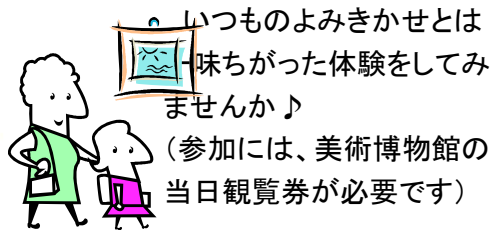
12月19日(木)午前10時30分から中央図書館2階講堂で行います。

絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊びのほか、絵本の紹介や「こういう時はどうい本がいいの?」といった質問にもお答えします。赤ちゃんと一緒に楽しいひと時を過ごしませんか。

よみきかせinミュージアム



1月から2月にかけて美術博物館で開催予定の「子どものための美術展」。その特別イベントとして、1月13日(月・祝)と2月1日(土)の午後2時から、美術博物館の中でよみきかせをするよ!



いつものよみきかせとは
一味ちがった体験をしてみ
ませんか♪

(参加には、美術博物館の
当日観覧券が必要です)

あたらしい本

～10・11月にとどいた本
からピックアップ♪～

「さみしかった本」 Eサ

ケイト・バーンハイマー/文、クリス・シーバン/絵、
福本 友美子/訳
岩崎書店

大勢の子どもたちに読まれた図書館の本。古ぼけてしまうと、もう誰にも読まれずさみしくてたまりませんでした。ひとりの女の子が、本をみつけてページをめくってくれるまでは…。
本と女の子の出会いをやさしく描いた絵本。



「なぞかけときじろう」

もとした いづみ/作、国松 エリカ/絵
岩崎書店

とけない「なぞなぞ」はないと大評判の少年、なぞかけときじろう。とつぜん妹のおきぬがさらわれ、部屋には暗号文がのこされていた。ときじろうは、「なぞなぞ」をときながら犯人を探す!
江戸の長屋の人情味あふれる物語。



よみきかせ会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

○吉小牧子どもの本の会○ (第1・第3日曜日)

12月1日・1月19日

2月2日・2月16日

※1月5日はお休みです

午後3時～3時30分

12月15日(クリスマスおはなし会)

午後2時～3時 ※会場 2階講堂

○にじのはし○ (第2土曜日)

12月14日・1月11日・2月8日

午後11時～11時30分

(第4土曜日)

1月25日・2月22日

※12月28日はお休みです

午前11時～11時30分

午後 2時～ 2時30分

ストーリーテリング おはなし会

会場 おはなしコーナー
定員 40名

○おはなしオルゴール○ (第3土曜日)

12月21日

1月18日

2月15日

午後2時～2時30分

かみしばい 紙芝居

会場 サンガーデン
定員 40名

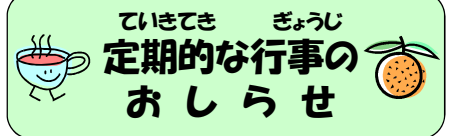
○かみしばいおじさん○ (第2土曜日)

12月14日

1月11日

2月8日

午後2時～2時30分



めいさく じょうえいかい 名作アニメビデオ上映会

会場 2階講堂

定員 70名

バーバパパ、にじいろのさかなシリーズなどのビデオを上映します。

(第2・第4日曜日)

12月8日

1月12日・1月26日

2月9日・2月23日

12月22日は

図書館文化セミナー

のためお休みします

午前10時30分～11時
上映時間が変わりました!

郷土・参考資料室からのお知らせ

レファレンス事例集—こんな質問ありました—

第26回 「第九のまち」

Q. 北海道に「第九のまち」があると聞きましたが、どこのことですか？

ベートーヴェンの交響曲第九番「合唱」、いわゆる「第九」は、日本人になじみ深いクラシック音楽のひとつです。12月になると全国で演奏会が催され、大晦日には『年末の風物詩』としてテレビ放映されるほど人気があります。

合唱曲の最高峰とうたわれるこの第九の演奏を成功させ、全国に「第九のまち」として名を轟かせた町があります。北海道上川郡清水町です。

演奏会のきっかけ

清水町が「第九のまち」として知られるようになったきっかけは、新設される文化センターのこけら落としに町民こそって「第九」を歌おうという提案がされたことでした。

提案者は高橋亮仁氏。当時、道立清水高等学校の音楽教諭で、地域と結びつけた音楽文化の活動を進めようと「せせらぎ合唱団」を昭和34(1959)年に結成。その指導にもあたってきました。

「第九のまち」

第九は10万都市以外での演奏は不可能といわれていましたが、高橋氏はこの通念を何とか打ち破りたいと考えていました。その矢先に文化センター新設が決まり、その設立の喜びを町民あげて表すことができるのは第九よりほかにない、と演奏の提案に至ったのです。当時人口1万3千人の小さな町での、全国に例のない大きな挑戦でした。

この一大事業の参加者は204人。学生や、酪農家の主婦、トラクターを操る若者、サラリーマンやOLなど、第九を歌いたいという目的だけで集まった人々は、楽譜を見るのもドイツ語で歌うのも、ましてやオーケストラを聴くのも初めてという状態からのスタートでした。しかし、練習に次ぐ練習を重ね、昭和55(1980)年12月7日、ついに清水町の名を「第九のまち」として全国に轟かせるほどの大成功を収めました。この演奏会は過疎の町の“奇跡”として、テレビや新聞などのマスコミで全国に報道され、大きな注目を集めました。

以来、5年に1度「第九」の演奏会が開かれ、そのつど集まった団員によって歌い継がれています。平成22(2010)年には7回目の演奏会が開かれ、30周年という節目の年を迎えました。

まちのアイデンティティーとして

「第九のまち」をキーワードにまちづくりも進め

られ、町の中央公園や郊外的美曼パノラマパーク、ペケレツ川に架かる石山橋などから「第九」のメロディーが響きます。また、「第九」の名が入ったお菓子や飲料水も特産品として作られ、「第九」が清水町のアイデンティティーとなるほど人々に愛されていることがうかがい知れます。(司書：工藤)

今回使用した資料

「カムイミントラ1995年5月号 No.68」(未登録)

りんゆう観光/刊

「清水町史」(H211.3/㉿) 清水町/刊

「<第九>と日本人(一般書)」(764.3/㉿)

春秋社/刊

新着図書を紹介

今回は参考図書の紹介です

『定本宮澤賢治語彙辞典』

(910.268/ㄹ) 筑摩書房/刊

宮澤賢治の全作品を中心に、天文・地質や宗教などの専門用語から賢治の造語まで幅広く網羅した一冊。

カラー口絵や本文の参考図版も多く掲載し、凡例付表や難読項目索引も充実。巻末付録に宮澤賢治年譜と関連地図を収録し、四半世紀におよぶ語彙探索の集大成となっている。

各項目は語彙の掲載作品と充実した解説が書かれており、賢治のより深い理解の一端を担ってくれる。

こちらの本は2階参考資料室で見ることができます。



参考図書室・郷土資料室のご利用に際して



★かばん等の持ち込みはできません。手荷物をロッカーにお預けの上、筆記用具類のみをお持ちになってお入りください。

★資料室には自習のための席はありません。自習する方は、2階電子情報サロン隣の『自習室』をご利用願います。

ふるさとの一片(61)

～郷土資料コーナーで見つけた～

和本：訓蒙圖彙

郷土資料ではないが稀書、
日本初の百科図鑑



当館所蔵の寛政元年（1789）出版の百科図鑑「頭書増補訓蒙圖彙大成」

初版は江戸前期の寛文6年（1666）に出版された「訓蒙圖彙」

当館所蔵の和本

当館に所蔵されている資料の中には和紙を和綴りで製本した本、和本があります。古いものは江戸末期までに行された国書、新しいものでも明治から昭和の中ごろの製本でしょうか。未整理の和本は四百冊ほどあり、適正湿度に保たれた閉架書庫奥の段ボールに詰められて永年保存されています。この秋頃から少しずつ出して整理をはじめましたので紹介していきたくと思います。

装丁は木版印刷された板本が多く、木版で刷った和紙を印刷面が表になるように折りたたみ、順番に重ねて厚い紙の表紙をあてがい糸綴りする和装本がほとんどです。なかには卷子本と呼ばれる巻物もあり、毛筆の写本には本物かどうか怪しいものもあります。

国立国会図書館オンラインサービス

整理に際して非常に役に立ったのはインターネットで誰でも閲覧可能な国立国会図書館のオンラインサービス、「デジタル化資料」や「近代デジタルライブラリー」でした。内容が分からない和本も同サービスのおかげで、百聞は一見に如かず、即座にそのものズバリの資料を確認することができました。つまり、同じ資料をモニターで視

覚的に同定することができたのです。

国立国会図書館の情報源から得られるデータを取り入れるのですから、典拠としても全く申し分ありません。もし、これを基本参考文献である文字だけの『国書総目録』を使って調べるとなるとたいへんだったと思います。和本目録のバイブルともいえる『国書総目録』は江戸末期の慶応三年（一八六七）までに刊行された日本人による著作、編集、翻訳した書籍（国書）五十万点の内容と、所蔵されている全国の図書館や大学、研究機関を記載した全八巻の総合目録です。

試みに「デジタル化資料」の検索窓に「苦小牧」と入力すると二千点以上の資料がヒットされます（十一月現在二〇五四点）。このなかには昭和十五年（一九四〇）刊行の四八八頁に及ぶ『苦小牧町史』も一点としてカウントされています。増殖するデジタル化資料はデータベース化され検索も容易で劣化もしません。これを調査研究に活用しない手はありません。

最も古い、苦小牧のデジタル化資料は明治二十六年（一八九三）九月十一日発行の官報、第三〇六二号でした。内容は産業としての見出しで「苦小牧馬市 北海道胆振国勇払郡苦小牧村馬

市は本年七月二十日より同二十七日に至る一週間開施・・・」と、苦小牧村で催された馬市の結果報告が記されています。「購買者が甚だ少なく、例年の半数にも至らず」とあり、明治中頃の苦小牧村では馬市が毎年行われていたことがわかります。ちなみに明治二十六年の売却頭数は二十八頭でした。

江戸のイラスト百科

さて、今回の整理により、当館所蔵の現時点でもっとも古い和本として訓蒙圖彙（きんもうざい）をみつめました。これは江戸前期の朱子学者の中村惕斎（てきさい）が出版した「絵入百科事典」です。日本で最初の「百科図鑑」ともいえます。初版は寛文六年（一六六六）に刊行されています。

当館所蔵のものは寛政元年（一七八九）版で「頭書（かしらがき）増補訓蒙圖彙大成」九冊、中身は全二十一巻、目録一卷から成っています。豊富で美麗な図と、図各々に和名と漢名と短い注記を付しています。訓蒙とは「子供や初心者に教えさすこと。また、その目的で作った書物（広辞苑）」のことです。最近「江戸のイラスト辞典訓蒙図彙」と題した復刻本が刊行され、副題は「わが国初のイラスト百科」となっています。（大泉）

イベントのお知らせ

赤ちゃんと楽しむはじめての絵本ひろば

内容 赤ちゃんと絵本の出会いを目的とし、赤ちゃんと絵本の接し方の実践と指導、絵本の紹介、読書相談などを行います。

日時 12月4日（水）～12月10日（火）
開館時間内 中央図書館カウンター、または、電話（35-0511）で受付。
定員を超えた場合は12月11日（水）に抽選を行います。（はじめての方優先）

会場 中央図書館2階 講堂

定員 15組（キャンセル待ち3組まで）

対象 0歳児とその保護者

申込 12月4日（水）～12月10日（火）
連絡方法 申し込んでいただいた全ての方に12月11日（水）に電話で連絡いたします。

寄付・寄贈ありがとうございました。（平成25年9月21日～11月20日）
個人 112件 894冊 団体 61件 93冊

今後の予定	★ 閲覧室入口
	展示中 Xmas Books 12月26日～ 誰も読んでいない本フェア
	★ 児童コーナー
	展示中 昔からず～っとある人気絵本 12月13日～ 自由研究・工作・読書感想文 12月21日～ はじまり・はじめて物語
★ 一般書コーナー（検索機横）	
展示中 オリンピック& ウィンタースポーツ特集 12月21日～ 笑う門には福来る	
★ エントランス	
展示中 苫小牧港開港50周年記念展 「50周年 記念の軌跡」	

- ※ 休館日の展示の公開はありません。
- ※ 行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

中央図書館カレンダー

※黒塗り白字になっている日は休館日です
丸印がついている日は午前9時30分～午後5時開館
印が付いていない日は午前9時30分～午後7時開館

2013年12月

日	月	火	水	木	金	土
①	2	3	4	5	6	⑦
⑧	9	10	11	12	13	⑭
⑮	16	17	18	19	20	⑰
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
29	30	31				

2014年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	⑬	14	15	16	17	⑱
⑲	20	21	22	23	24	㉑
㉒	27	28	29	30	31	

「図書館deキャンプ」の中で行われた「宝探しゲーム」で子どもたちが実際に挑んだ謎（の一部）です。ぜひ、試しに解いてみてください。（どちらの問題も「ある言葉」が浮かんでくるはずですよ）

Q1

						→			↓
				↑					
		む							
								↑	

Q2

9/16	→	③○○○○○
9/23	→	○○○○○○○
10/14	→	①○○○○○
11/3	→	○④○○○
11/23	→	○②○○○○○○○○
12/23	→	○○○○○○○○○○